

ひと・命が大切にされる社会に

行商に行く 母の背中 みて育つ

私は終戦の年、6人兄弟の4番目として、オホーツク海に面し四季の自然に恵まれた北海道網走市で生まれました。

父は小学2年の時に脳溢血で倒れ、中学1年の時に他界しました。父が病気で倒れて以後、一家の生活を支えたのは母で、私は、行商に出かける母親の背中を見て育ちました。

中学卒業と同時に、地元の商店に住み込みで働き、夜間の定時制高校に通学し卒業しました。高校生のとき、担任の先生から、ものの方や考え方、社会のしくみなど色々学びました。

高校を卒業して上京し、機械工具販売の会社で働きながら夜間は中央労働学院で学びました。多くの仲間や先輩と話し合う中で、社会の矛盾や政治の問題点などを学び、19歳の時、日本共産党に入りました。

翌年、「共産党で働かないか」との誘いを受け、「世の中を変えたい」と意気に燃えて党専従者の道に踏み出し、以後、45年間がんばってきました。

人の役に立 てる人間に なりたい

「人の役に立てる人間になりたい」「困っている人たちの力になりたい」という考えが強く培われたのも党専従者の活動が原点になっています。

5児の母親で、コンビニを2カ所かけ持ちで働いていますが、生活に追われています。佐竹さんはどんな問題でも相談できる頼もしい味方です。 東中沢・小山栄子

勤めていた店が廃業となり、どうやって生活したらと悩んでいた時、佐竹さんに立ち会ってもらい生活保護が受けられました。心から感謝しています。くぬぎ山・山田和子

鎌ヶ谷で

「生活と健康を守る会」の 活動に参加

党専従の時から、生活に困窮している人たちの相談相手が必要だと考えていました。「生活と健康を守る会（生健会）」は、低所得者の暮らしと権利、命を守るためにかけがえない団体です。鎌ヶ谷にも「生健会」があり、迷いなく飛びこみました。どんなことでもすぐに駆けつけ相談のっています。今の私のライフワークです。



生活相談に親身に対応する佐竹さん

衆院選に続き、今度は「いっせい」で日本共産党の躍進を

昨年末の総選挙は、安倍政権と正面から対決する日本共産党が躍進しました。安倍政権は、消費税、原発、集団的自衛権、沖縄など、どの問題でも国民の民意に背く暴走を加速しており、本格的な「自共対決」の到来です。

目前に迫ったいっせい地方選挙。自治体本来の原点にたつて福祉と暮らしを守る「防波堤」としての役割が自治体に求められています。

みなさんの声を市政に届けるため、私も、その先頭に立つてがんばります。



日本共産党

党鎌ヶ谷市委員会副委員長、市議予定候補

佐竹ともゆき

かまがや民報

2015年2月号外【発行】日本共産党鎌ヶ谷市委員会
鎌ヶ谷市道野辺本町2-18-11 ☎047-446-0351
日本共産党鎌ヶ谷市委員会の政策を紹介します。